



令和6年度愛南町防災・事前復興フォーラム

若い世代とともに“住み続けたい街”を創造し、きらめく愛南を未来へ

大規模な災害が発生した際に、適切かつ迅速、円滑な復興に資するとともに、安全・安心、魅力的なまちづくりにつなげていくため、町の事前復興まちづくりの取り組みについて考えることを目的に「令和6年度愛南町防災・事前復興フォーラム」を2月22日(土)、御荘文化センターで開催しました。

フォーラムでは、消防本部防災対策課による町の事前復興の取組報告のほか、東京大学大学院生から昨年4月に御荘地域（観自在寺周辺）および福浦地区で実施した現地調査を基に、復興デザイン案の報告が行われました。また、南宇和高校防災地理部が東北視察での経験から町の理想のまちづくりについての報告が行われました。「愛南町を魅力溢れる住み続けたい街にしたい、そのために私たちがができることは、防災意識や学習内容を次の世代に継承すること」など、高校生の立場から考える将来の愛南町についての思いが述べられました。



講演会では、東日本大震災後に宮城県石巻市北上地区で被災者の合意形成支援や地域自治活動の後方支援を活動してきた（一社）ウィアーワン北上の佐藤尚美代表理事から復興まちづくり活動、元宮城県気仙沼市危機管理監であるアジア航測(株)の佐藤健一氏から発災当時の状況や気仙沼市の災害への備えについて講演が行われました。



また、「住み続けたい街」を創造するための事前復興まちづくりをテーマに、東京大学の羽藤英二教授の進行によるパネルディスカッションが行われました。登壇者に加えて、東京大学の菊池雅彦特任研究員、水産庁漁港漁場整備部の中村隆部長、中村維伯町長と一緒に南宇和高校防災地理部の生徒も討論に参加しました。

住み続けたい街であるためには、若い世代の「居場所」や若い世代の思いを受け止める人が必要であると意見が挙げられました。会場参加者からは、同意したコメントに拍手が送られるなど、会場全体で町の将来のまちづくりについて考える機会となりました。

